

平成24年度 大学院工芸科学研究科入学宣誓式（秋季） 学長告辞

本日ここに入学式を迎えた 大学院博士前期課程21名、博士後期課程31名の皆さんに対し、京都工芸繊維大学を代表し、心から歓迎の意を表します。

今日、皆さんの新しい力を迎え入れることができたことは、京都工芸繊維大学にとって、誠に大きな喜びであります。新入生の皆さんは、希望と喜びを持って、今日の入学式に臨まれたことと思います。しかしながら、我々を取り巻く状況は日々厳しさを増しております。東日本大震災の影響は日本全体に及び、社会・経済・科学技術に関して、根本から問い直さなければならない事態となっています。本日は、あなた方新入生にとって、記念すべき日ではありますが、同時に、私たち国立大学に課せられた期待の大きさを認識し、困難な課題に立ち向かう勇気を奮い起すべき日でもあります。

京都工芸繊維大学は、理工系の単科大学であり、科学と芸術の融合を目指して教育研究活動を行っています。大学理念を大胆に簡略化すれば、知と美と技、そして学風の底流に流れる京の四文字に縮約することができます。我々はこのキーワードが指し示す方向に向かって活動の舞台を整え、3つの学域と2つの独立専攻を設置し、大学個性を伸長するべく、教育研究活動を展開しています。洗練されたモノづくりを行い、それを文化にまで高めてきた京都の地の利を活かし、いま京都工芸繊維大学は、グリーンイノベーション、ライフイノベーション、カルチャーイノベーションの3つの領域において、実践的なモノづくりを通じて教育研究を行っています。しかしながら、今日の研究成果の状況を見ると、日本の研究力が低下してきています。これは、文部科学省や民間企業も心配しているところです。研究の最前線は、皆さん方、大学院生と教員の共同作業の場にあります。日本の研究力強化のためにも、是非大学院生皆さんのご尽力と野心のある活動を期待しています。

本日の入学式にあたり、学長より、新入生諸君に申し上げたいことは、4つのメッセージであります。これら4つの事項は、新入生のみならず、学生、教員、職員並びに法人役員が互いに共有し、確認しあいながら大学運営にあたりたいと考えている事柄です。

- 1つ京都工芸繊維大学を愛すること。
- 1つ勝利が染みついた人間をめざすこと。
- 1つ学生は国の宝であること。
- 1つ科学と芸術の融合を目指すこと。

一つ目の 京都工芸繊維大学を愛すること。であります、

私たちの活動の源泉は、京都工芸繊維大学への愛であり、本学への愛がなければ何も始まらないし、何も生まれないと思います。今日、厳しく困難な時代を迎え、日本社会はもとより、大学においても、抜本的な大学改革が必要とされています。事実、京都工芸繊維大学においても、改革プログラムを作成中であります。この改革の規則や制度は、これまでに比して厳しい内容になると思います。だからこそ、改革の理念、改革の中身が、本学への愛情に裏付けられたものでなければ、意味がないと考えています。またこの大競争時代を生き抜くためのアイデアは、専門知識からではなく、本学への愛情から生まれてくるものだと思います。

一方で、親子においてすら、本能のママに情愛が発生する時代ではありません。ましてや大学に対しても、すべての本学関係者は大学への愛情を持っているはずだ、というは、根拠のない仮説となっています。愛情は改めて、意図的に、学習すべきものとなっています。

このことを理解したうえで、なお、新入生諸君には大学への愛情を求めたいと思います。秋のイチョウの紅葉の色を通して、あるいは冬の比叡山の白い雪を通して、あるいは理由もなく、京都工芸繊維大学が好きになってほしいと願っています。

二つ目は 勝利の染みついた人間をめざせ。ということです。

いいかえれば、成功体験を積み重ねることが大切です。いま京都工芸繊維大学にもっとも必要なことは、いろんな分野や領域において成功体験を蓄積し共有することです。教育、研究、管理運営の各職場において、一つでも多くの成功体験を蓄積することが大切です。このためには、過去の栄光にしがみつくのではなく、新たな成功を求めて、貪欲に、挑戦し続けていただきたいと思います。新たな挑戦を繰り返し、常に勝ち続ける人間を一人でも多く育成することが目標です。新入生の皆さんは、失敗を恐れず、恥ずかしがらずに、さまざまなことに挑戦し続けていただきたいと思います。

私自身は、「京都工芸繊維大学が世界一の大学であることを実証すること」これを目指に、奮励努力する所存です。新入生諸君も、大学院生として、大学の構成員の一人として今後ともご協力を、お願いしたいと思います。

三つ目は 学生は国の宝であること。

学生は我々の後継者です。その意味でも愛すべき存在です。京都工芸繊維大学の学生は特別であり、同じ研究室の後輩は文句なしにかわいい。

さて、学生は国の宝であること、これは、恥ずかしくなるほど大仰なことばですが、東日本大震災以降、私にとっては、ますます実感として感じられる言葉です。大学の使命の第一は、教育であります。学生という国の宝を預かっているのだとすれば、適切に磨き、育成して社会に送り出すことが我々の責務であ

ります。新入生諸君もまた、我々の教育に協力し、自分自身を自ら育成する努力、自分が成長していることを実感できる努力を行ってください。

一方、大学の魅力は研究にあります。大学院はまさしく、研究と教育が融合した場であり、教員と学生が研究室の運営においても共同する場でもあります。これはまた、皆さんが留学生諸君との共同作業を通じて国際競争に打ち勝てる強い人材として自らを鍛えあげる機会でもあります。

四つ目は 科学と芸術の融合をめざせ。という主題です。

本学の活動指針は、知と美と技 を極める工科系大学として、活動を展開します。

京都工芸繊維大学は、京都高等工芸学校および京都蚕業講習所に端を発する110余年の歴史の中で、「知と美と技」を探究する独自の学風を築きあげてきました。この栄光の歴史に新たな一頁を加えるべく、豊かな人間性に基づく技術の創造をめざして技を極め、人間の知性と感性の共鳴を求めて知と美の融合をめざし、教育研究の成果を世界に発信していきます。

より具体的には、アクションプランの推進として、次の三つをあげます。

1 教育の質の向上に向けて、学生諸君には、次のような能力を期待しています。個々の 学生が、自らの感動を普遍的な知の力に変換できる構想力と表現力を涵養することによって、国際性豊かな力強い人材になることを求めています。特に海外インターンシップの推進に力を入れ、日本企業だけでなく海外企業のインターンにも、ふるって参加していただきたいと思います。現在、学部生に対して、本学が開発したKITスタンダード、総合型ポートフォリオといった教育システムを活用していますが、これを大学院生にも適用し、大学院生個人のデータを蓄積し、きめ細かい支援策を運用したいと考えています。

2 研究水準の向上策として、学術分野における新規性、社会の進歩に貢献する革新性、文化の発展に寄与する美の探究の 3 つを指標として研究水準の向上に努めたいと思います。

3 連携事業の推進

他大学との連携、企業との連携、自治体との連携、国際連携を通じて、教育活動や研究活動、社会貢献活動を幅広く学外に展開していきます。特に、民間企業との関連を重視し、これまでの産学官連携研究にとどまらず、産学連携教育の旗印の下に、各専攻や学域と企業との接触の機会をもうけ、実践的な教育を行いたいと思います。

新入生諸君は、大学理念に詠われているように、感動を普遍的な知の力に変

換し、ユーモアあふれる表現力を身につけ、自らの技術、体力、精神力の強化に努めて頂きたいと思います。

平成24年10月1日
京都工芸繊維大学長
古 山 正 雄